

龍源寺報

平成30年 秋 彼岸号

派 寺 心 妙 宗 濟 臨
樹 信 原 松 妙 心 寺
住 職 松 原 住 職 住 職
佛 母 寺 住 職 佛 母 寺
正 福 寺 住 職 正 福 寺
T E L 3 4 5 1 - 1 8 5 3
F A X 3 4 5 1 - 6 0 9 4

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

秋彼岸におも

龍源寺住職 松原信樹

先日、亀ヶ谷さんという、近所の魚籃商店街で長く時計店を営んでいる時計職人の方に、無理を言って龍の時計を作っていた。その龍の時計には、針がない。私自身、時間を示す時計に、針はなくてもいいなんて思っていた矢先のことだった。時間というのは、人間の存在としての時間性のようなものが本来あるから、一時間、一分間、一秒間といった時間というものが案出されたといわれている。私達は、そのような時間の流れの中であって、毎日を振り返り、明日を夢見て、今を生きている。しかも、死という終わりが私達の存在を限界づけている。だから、私達個々に与えられた時は無限ではなく、有限である。

日々生活をしていると、様々な出来事に引きずり回され、自分の関わった出来事の成功や失敗に一喜一憂し、過去の記憶のなかを漂い、周囲の出来事に気を取られ、自分らしさを失うこともある。しかし、どのようなことがあっても、自分の「いのち」の充実を目指して、限られた時間を熟成させようとして、誰もが生きている。僧侶の修行も大変だが、娑婆の修行も大変である。

何かに行き詰まった時、恩人に出会ったり、多くの良書に出会う。私自身も、行き詰まった時、多くの人に助けていただいた。だから、自分で生きているというより、生かされているという気持ちの方が強い。書物に関して言わせていただければ、ただ、売ればよいという仏教書がある反面、多くの優れた仏教書が、様々な角度から様々なアプローチで提起されている今日、改めて仏教学というヨーロッパの修練を経たものが本格的に語り出されるべき時期にきているとおもう。

仏教の本質つまり「縁」というものを、広く深く学問的に探求し直すとともに、首都・東京にもみられるようにグローバルな文明社会の様々な葛藤や困難と向き合いながら、仏教に携わる者としての意志と感情のすべてをこめて、科学と人間の両極にわたった「現代の仏教」を樹立すべき責務を、僧侶は負っているといわねばならない。

私たちは日本人は、科学技術の開発に率先して取り組み、器用で知性あふれる諸活動を文化や社会のあらゆる場面で展開するとともに、感情に流されやすく、ものあわれに共感する心を持っている。和を持って、新しい文化や社会理念を形成しうる力量の持ち主でもあろう。

読書の秋、どうか良き一冊に出会うことをお祈りしています。

寄附

経蔵設立支援資金

金一千万円 石井公一郎殿
金一千五百万円 石井タマ子殿

本堂改良工事 エレベーター増設

金百万円 北村行夫殿
金五万円 鶴飼富雄殿
金二万円 三田政志殿・三田不二子殿

ありがとうございました

＊将来は、本堂の裏地を整理して、大般若経を納める経蔵を建立する計画をしております。

秋ひがん法要

左の通り行ないます。ご家族そろってお参りください。

一、九月二十三日・秋分の日（午前十一時より）

一、法話

一、齋座（おとき）

※駐車場はありません。南北線をご利用ください。

龍源寺への交通の便（地下鉄）

- 都営三田線（目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分）
- 2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり

龍源寺への交通の便（都バス）

- 田 87 渋谷駅—田町駅 魚ラン坂下下車
- 都 06 渋谷駅—新橋駅 古川橋下車
- 品 97 品川駅—新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車
- 反 96 五反田駅—品川駅—六本木ヒルズ（循環）
魚ラン坂下・古川橋下車
- 東 98 東京駅丸の内南口—目黒駅 魚ラン坂下下車

龍源寺の定例会

禪の会（坐禅体験）

指導：松原信樹

定例日：毎月第一土曜日

（一月は別途）

時間：（二回）

午前十時から十二時、

午後一時三十分から

三時三十分

内容：坐禅とお話

会費：来会の時二百円

参加者の方は、サラリーマンの方・

女性の方・学生・会社の社長さん

様々です。大体五十人位。

仏像を彫る会

指導：三木童心

定例日：毎月第二土曜日、

第四土曜日

時間：午前十時三十分から

十二時三十分（初心者）

午後一時三十分から四時

会場：龍源寺花園会館

会費：二千円

写経会

日時：毎月第三土曜日

十四時から十六時

（八・十二月は除く）

受付：十三時五十分より花園

会館

写経会：十四時より『般若心経』の読経・法話があり、写経会が始まります

会費：二千円

携行品：小筆など書道用具一式

参加資格：どなたでもご参加いただけます

*墨汁は使いません。墨を硯ですります。早く書写し終わりましたら、時間まで静かにお待ちください。

間に合わなかった方については、講師の先生に相談してください。

講師：飯沼定子先生

著作：心が楽になる「観音経」――

ペンで書く写経 松原哲明【著】

飯沼定子【書指導】／佼成出版社

（二〇〇七年五月発売）



この度は、経蔵設立支援資金・エレベーター増設工事に高額なご寄付をいただきまして、ありがとうございます。龍源寺は平成三十

七年に創立三百五十年を迎えます。その事業の一環として、エレベーター増設工事、東北寺合同船、納骨堂の建設、借地の整備をし、将来本堂を建て直す際、経蔵を建立し、寺院らしい景観を保たせていきたいと思ひます。皆さまのご支援、ご協力宜しくお願ひ申し上げます。寺院を地域の文化資源の一つとして考え、境内整備に力を注いでまいりたいと思ひます。▼エレベーター工事も順調に進んでおり、秋彼岸には間に合うように、工事関係者一同ご尽力下さっています。皆さん素晴らしい職人の方々です。▼八月は幸い時間がうまくとれましたので、禅の語録の読解に時間を注ぎました。基本的に本が書庫にあるので、龍源寺から離れることができません。よほどのことがないかぎり、外泊はせず、寺に戻るようになっています。▼一ヶ月の

間、アメリカにいる弟と姪が龍源寺におり、大変賑やかな毎日でした。「来てよし、帰ってよし」の境涯を味わいました。今年、八月に島根の益田や岐阜の下呂でお話しをさせていただいた時、最近では、お盆で帰郷しても実家には泊まらず、ホテルに泊まるというっておられました。これも、時代の流れでしょうか。▼坐禅会も少しずつ参加する方が増えているようです。十月には正福寺の縁で慶應大学アート・センターの学生さんが、「レクチャー&坐禅」（古川のほとり・龍源寺からのまなざし―寺院文化の現在）と題し、龍源寺で坐禅体験をされます。龍源寺では、明治初期に何人かの塾生を預らせていただいたことがあり、不思議なご縁を感じます。▼妻の亜矢は、北軽井沢の日月庵坐禅堂での研修のお手伝いで、布団干しをした折、ギックリ腰になってしまいました。したがって、娘と家内の面倒をみながらの日月庵の研修でした。心に残る思い出となりました。娘の瑞樹は二才になり、お話も上手になりま

した。最近では私にも話しかけてくれるようになりました。コミュニケーションが取れる喜びを感じています。母は、今回の工事で、車いす用のスロープも併設されるので、安心して膝の方も完治はしませんが、上手に膝痛とつきあっております。▼病院からの流れで決まってしまうケースが多いようです。お檀家さままで、お葬式をされる場合、信頼のある葬儀社を紹介させていただきます。病院で臨終の際、まず、一番はじめに龍源寺か深夜でしたら「あおば葬祭」〇三・五七二二・七六五一（東京都目黒区下目黒五・七・一）にお電話を入れていただきたいと思ひます。丁寧なお仕事で、皆さまに大変喜ばれています。葬儀、家族葬、密葬など気軽にご相談下さい。生前のご相談も受け付けています。▼本年の秋彼岸は、台風などの影響で工事が遅れ、ちらし寿司の野菜の刻みは中止とさせていただきます。九月二十三日午前十一時秋彼岸会でお会いできるのを家族一同、楽しみにしております。（信樹）